

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 88 号 (H30.11.18)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに

11 月、宮崎でも最低気温が 10 度を下回り、朝夕寒いなあと感じるようになりました。それでも晴れた日は、青空が広がり、すがすがしい気分になります。

今回の ORMZ ニュースは、山元香代子先生からの現地活動報告と、当会会員で以前ザンビアに滞在されていた時にもお手伝いをしていたいただいた櫻井さんが、この 1 ヶ月間余りザンビアに来られ、山元香代子先生のお手伝いをしていた時のご報告をお届けします。

会の経過報告

UMKテレビ宮崎が、山元香代子先生の活動をザンビアで取材、制作されたドキュメンタリー番組、「道なき道の彼方へ—へき地を診る医師—」が第 27 回 FNS ドキュメンタリー大賞にノミネートされ、10 月 27 日に放映されました。また、関西地域でも 11 月 13 日に放映されたようで、放映時間が深夜だったにもかかわらずご覧になられた方々から「感動しました」「自分も何かできないかと考えました」などとメールが届き、また多くの方から賛助会員になっていただいたりご寄附をいただいたりしております。このニュースをお借りして心からの感謝をお伝えします。

嬉しいニュースが 16 日に届きました。6 月に申請していました「風にたつライオン基金」の事務局から交付決定の連絡がありました。「コミュニティヘルスワーカーのマラリア予防及び治療の支援」活動に使わせていただきます。ありがとうございました。

現地活動報告 (ザンビアより山元香代子先生)

みなさま いかがお過ごしでしょうか。日本は少しずつ寒くなっているのでしょうか。こちらはいいお天気が続いています。ここ 2-3 日は朝方寒くて目覚めるほどで、日中も建物の中いるとあまり暑くは感じません。

断水は続いています。以前は朝 6 時には出始めていましたが、だんだん遅くなってきていて、金曜日は 10 時ようやく出始めました。そして 16 時過ぎには止まりません。何とか 1 日数時間でも水が出てほしいと思っています。

ランクル 1 台はトヨタの修理工場に入っていて、まだ見通しがつきません。当会の動く車が無いと、普段の交通手段として、ミニバスかタクシーを使っていたのですが、箱買いする薬品などの運搬もたいへんでしたので、数件の中古車業者を回り、2005 年製のファンカーゴというトヨタ車を購入しました。登録などの手続きも含めて 57,000 クワチャ(約 53 万円)でした。こちらでは日本の中古車がとても高く取引されています。

10 月 17 日はニャンカンガでの巡回診療。患者数は 69 名と少なく、マラリア陽性は 63 名中 0 名。



血便のみられる赤痢疑いの患者が5名で、浅井戸や川の水を飲料に使っている人たちでした。

11月7日はサンダラでの巡回診療。患者数は60名と少なく、マラリア陽性は60名中4名(6.7%)。全てルアノ外からの患者でした。とにかく暑くて、ミネラルウォーターがお湯のようになり、帰路のチサンバで飲んだ冷たいソフトドリンクがとてもおいしかったです。しかし、その後1台のレンタカーはギアボックスの調子が悪くなり、もう1台のレンタカーもプロペラシャフトの具合が悪くなり、共に立ち往生。ルサカに着いたのは23時前後でした。私はおそらく脱水だと思いますが、翌日体重が2kg近く落ちていました。

10月の最後の2週は巡回診療がなく、10月22日、保健省から許可の下りたルアノ郡リテタでの巡回診療を開始するために、ムクシのルアノ郡保健局を訪ねました。片道約5時間かかりました。保健局長に連絡を入れていたのですが、本人はおられず代理の人にこれまでの経緯と11月末から診療に行くことを伝えました。

この週からマラリア蚊の噴霧を始める予定でしたが、殺虫剤が届いておらず延期。10月29日によく手に入るとのこと。ただ保健省のトラックは北部州などから配り始めるのでチサンバにはいつ届くかわからない。チサンバ郡保健局の担当者にORMZでトラックを準備してくれと言われ、これ以上噴霧を延期できないと判断し、2,200クワチャ(約2万円)でトラックを借りました。その郡保健局の担当者と待ち合わせの約束をしてMedical Store(保健省の薬剤を管理している所)に出かけましたが、郡保健局の担当者は現れず、保健省の役人に何であなた達が殺虫剤を取りくるのだと文句を言われました。しかし、以前ザンビアで仕事をしていた時の知り合いだったことから文句は言われながらも、殺虫剤を何とか手に入れることができ、チサンバ郡まで運ぶことができました。そのうちの20箱をもらいうけ、10月31日には噴霧のためにルアノに出発できました。しかし、郡保健局担当者にしっかり確認しておいた噴霧ポンプをなかなか貸してもらえず、また一悶着。それでも何とか借り出して、11月1日から4日まででルアノの奥の噴霧が約200戸分終了しました。10月29日殺虫剤を受け取る時に会って話し合いをもつ予定だったにもかかわらず、現れなかった郡保健局の担当者からの呼び出しがあり、11月5日はチサンバまで出向きました。嘘かほんとかかわからない言い訳を延々と聞かされ、腹が立ってしょうがないのですが、どうしようもないです。これが実務を行っている郡保健局の担当者です。11月7日夜中にサンダラから戻り、8日にはルアノの残りの地域の噴霧のために2台の車(レンタカー)は出かけました。15日からはニャンカンガです。みんな頑張ってくれています。

櫻井さんは11月5日に帰国されました。様々な事務手続き、薬剤や噴霧のためのこまごました町での買い物などをお願いできて、とても助かりました。特に約7年分の書類をファイルに整理していただき、本当にすっきりしました。

みんな元気でがんばって仕事をしています。これからもみなさまからのご支援をよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。



子どもの体重測定の様子



道路沿いでスイカを売っている

現地報告(櫻井睦子様から)

山元先生は巡回診療に行かない日も忙しい。

毎週水曜日の診療後には、全てのカルテをチェックし、クリニカルオフィサーの診断や処方について問題点を指摘し指導をする(小さなノートをカルテとして使っているが、埃だらけの上にノートがすぐ

バラバラになる。それをテープで補修するのも先生の仕事)。また先生の診療日以外のコミュニティーヘルスワーカーの活動レポートにも目を通す。

それらを集計して、ヘルスセンターへ提出するのと巡回診療に参加するクリニカルオフィサー、助産師、コミュニティーヘルスワーカーへ配布するのと、診療レポートを二種類作成する。

そしてもちろん次週の診療に備えての用意も必要だ。

診療だけでなく、マalaria蚊駆除の薬剤噴霧も雨季前のこの時期にやらなくてはならない。その用意は薬剤・噴霧器、マスクや手袋などの装備から、宿泊施設の無い所で4~5日噴霧を行う為、派遣する人間の寝るためのマットレスや毛布、食料、ジュリ缶に入れた予備の燃料、具合の悪い村人が来た時の為の応急処置薬品セット等々まで。用意も大変だ。山元先生は辺地に何日も泊まって噴霧をしてくれるスタッフを気遣って、彼らの食料の用意なども疎かにすることなく、自分で調達に行っている。

さらには、井戸掘りも並行して進んでいる時がある。井戸掘り業者は今のところ誠実に仕事をしているが、できる範囲で確認をすることが大切だ。現場にその都度行くのは無理なので、業者と連絡を取り進捗状況を把握する。

診療も噴霧も、帰ってくると車両の整備修理に気を配らなくてはならない。

車のメンテナンスは、運転手やメカニックに任せる他ないが、時々目を光らせないと、スペアパーツや燃料をごまかされたりする可能性もあるので、任せっきりというわけにはいかない。

買い物も時間がかかるし日本人にはイライラする場面も多い。

街中は渋滞が酷く駐車場を見つけるのも一苦勞。店に行けばやる気の無い店員が同僚とおしゃべりに興じながらのんびりとお金を受け取り何度もお金を数えなおす。レシートを書いてもらうのにもやたら時間がかかり、その上間違っていたりする。

役所での手続きや銀行も同様で、職員の超スローな仕事に加え、停電だのコンピューターがダウンしたのだのと、まあとにかく言い訳のオンパレード。書類一枚もらうのに何時間も待つことがある。最近役所等の手続きも一部オンライン化されつつあるが、システムの不備や停電でシステムが作動していない場合も多いので、決してスムーズに終わることはなく、便利になったとは言い難い。

ついでに言えば、保健省や地方の保健局の役人に面会の約束を取り付けても、すっぱかされることが多く、時間も車の燃料代も無駄になって本当に腹立たしいことこの上ない！

約束をすっぱかしておいて謝るわけでもない保健省の役人に、怒りを押し殺して必死に頭を下げ、噴霧薬剤をもらえるように交渉する山元先生の姿に胸が熱くなる。

というわけで、何事もやたらに時間がかかり、人任せにはできず、自分の目で確認しプッシュしないと正しく事が進まないのがザンビアでの現実である。

留守中も滞在中もお手伝いして下さる日本人の方々がいるのだが、山元先生は年に2回、各3か月弱のザンビア滞在中に、診療・噴霧・井戸掘り・コミュニティーヘルスワーカーのワークショップの手配と準備、車の管理、運転手やメイドの給料計算、金銭管理、役所での様々な手続きや折衝を全てほぼ一人でやっている状態で、これはどう考えても無理がある。実際深夜まで机に向かっている日も多い。

正直なところ、2011年から今まで大きな事故も無く、よくこの状態で続けてこられたものだと思う。様々な手続き等がどんどん煩雑になってきているし、活動の範囲も広がっている。今後もこの体制で続けていくのは現実的ではないだろう。

山元先生の負担を減らすべく、ザンビアに長期滞在して総務関係の仕事を一手に引き受けてくれるような人材が現れてほしいものと切に願う。

<雑感>

半年ぶりにザンビアに到着した日、ORMZの事務所兼住居は断水だった。

その夜、バケツの水で行水して、日本での楽ちんな生活で緩んでいた身も心も一気に引き締る。

それから毎日夕方4時位から朝6時過ぎまで断水が続いている。午前中しか水が出ない日もあり、とにかく水が出ている間にバケツ、洗面器、鍋、ミネラルウォーターの空きボトル等々に水を貯めて、洗濯と料理を済ますしかない。が、数週間もするとすっかり水道局に調教されてしまい、本来水道は24時間止まらないのが普通だということを忘れ、毎日何時間か出ているだけでもありがたいと水道局に感謝さえするようになり、“水時計”に支配される生活に甘んじる。

10月のザンビアは11月下旬から始まる雨季前のとても乾いた季節。舗装していない道路は車が通るたびに埃を舞い上げる。そんな一年で一番乾燥している時期に、ジャカラランダや鳳凰木の花が一斉に咲き誇り、埃だらけの街を華麗に彩っている。

マンゴーもそろそろ食べ頃だ。小粒で黄色い繊維ばかりのものから、外皮は緑色だが中はオレンジ色に熟れて美味しい種類、また輸入物ではあるがアップルマンゴーと呼ばれる丸々として大きく赤っぽい色の混じるちょっと高級なマンゴーもある。マンゴーの樹はザンビアの至る所にあつたわわに実を付けているので、日本では考えられない安価で手に入る。ザンビアにいる間にせいぜいマンゴーを食いだめしておこう。

久しぶりに日本からザンビアを訪れると、イライラして腹立たしいことも多いし停電や断水にもうんざりするのだが、青い空、緑の大樹の原色の花々、地平線まで続く大地、そして人々の笑顔に魅了され、性懲りも無くまた次の訪問を楽しむにしまうのである。

櫻井睦子



真っ赤な鳳凰木



道ばたで売っているマンゴー

賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

- ・平成30事業年度（事業年度は1月から12月）の賛助会費（個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上）及びご寄附（金額は問いません）のご協力をお願いします。
- ・当法人は認定NPO法人であり、ご寄附（賛助会費含む）いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書（賛助会費も寄附金と同様税控除の対象）をお届けします。
- ・ご不明の点は日高（info@ormz.or.jp）までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替

口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金

郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称（全角）：トクヒ）ザンビアノヘンチイリョウヲシエンズルカイ

*これからもご支援のほどどうぞよろしくをお願いします